

時	1	2	3	4	5	6	7	8
目標	【知識及び技能】後方支持回転の行い方を知るとともに、後方支持回転に十分取り組んだ上で、それらの発展技に取り組んだり、技を繰り返したりすることができるようにする。 連続技の構成の仕方を知るとともに、上り技、支持技、下り技を組み合わせた連続技に取り組むことができるようにする。 【思考力、判断力、表現力等】後方支持回転のポイントと自己や仲間の動きを照らし合わせ課題を見付けるとともに、考えたことを友だちに伝えようとしている。 【学びに向かう力、人間性等】後方支持回転に進んで取り組み、順番やきまりを守り、誰とでも仲良く運動したり、場の安全に気を付けたりすることができるようにする。							
コア技術	① つばめからの高速スイングをしている。→腰から頭までをピンと伸ばした姿勢を保ち、腰を鉄棒から離して足を大きくふる。 ② レの字から倒れている。→足を鉄棒に絡めるように振り上げる。							
めあて	つばめキックでレの字を作ろう。	後ろ振り跳び下り競争をしよう。	後方支持回転のポイントを確認しよう。	補助付きで後方支持回転をしよう。	後方支持回転がより良くなるアドバイスを考えよう。	支持系の技と下り技を選んで、組み合わせよう	上がり技、支持系の技、下り技を組み合わせる連続技に挑戦しよう	学習の成果の発表会をしよう。
指導内容	1. 準備運動（加茂小体操） 2. 鉄棒運動への慣れの動き（技の予備的な運動） ・ とびあがり ・ つばめ（頭から足先まで真っ直ぐ伸ばして胸を張る。） ・ つばめキック ・ 逆上がり ・ （後ろだるま回り） 3. つばめキック（レの字キック） かかわりあい <u>補助</u> ・ つばめキックの補助は膝裏を支えて、足を投げ出しやすくする。	1. 準備運動（加茂小体操） 2. 鉄棒運動への慣れの動き（技の予備的な運動） ・ とびあがり ・ つばめ（頭から足先まで真っ直ぐ伸ばして胸を張る。） ・ 後ろ振り（つばめスイング） ・ 後ろ振り跳び下り 3. 後ろ振り跳び下り競争 後ろ跳び下り かかわりあい <u>声かけ</u> ・ 「いち、にい」の「にい」でスイングが大きくなるように伝える。	1. 準備運動（加茂小体操） 2. 後方支持回転のポイントの発見 ① 足を振る動作を3回（いち、にい、レ！） ② 腰が鉄棒に着くまでしっかり支持。 ③ 腰が鉄棒に着くタイミング足を振り上げ回転を始める。 ④ 腰を鉄棒に引っ掛ける。 かかわりあい <u>声かけ</u> ・ ツバメの姿勢を保ってスイングできているかを伝える。 ・ ふっている足の高さや腰が鉄棒から離れているかを伝える。 ・ レの字を作れているかを伝える。「いち、にい、レ」	1. 準備運動（加茂小体操） 2. 後方支持回転のポイントの確認 3. 後方支持回転 子ども同士の学び合いの中で、動きのポイントや課題を見付ける学習 かかわりあい <u>補助</u> ・ 腰（背中）と太もも裏を持って鉄棒から離れないように補助する。 ・ 起き上がるときに、腰を押す。 <u>声かけ</u> 足を振ることと鉄棒をレの字で挟んで倒れることを伝える。 ① 大きなスイング（いち、にい、レ） ② レの字を作る。 ③ レの字の状態から肘を曲げて倒れられるように、タイミングを合図する。回転前に体が鉄棒から離れないように意識させる。	1. 準備運動（加茂小体操） 2. 鉄棒運動への慣れの動きをする 3. 支持技と下り技 自分で支持回転する技と下り技を選び、挑戦する。（支持技の例示） ・ 膝掛け後転 ・ 両膝掛け後転、前転 ・ もも掛け後転、前転 ・ かかえ込み回り 前 後ろ ・ 後方支持回転 ・ 前方支持回転（下り技の例示） ・ 前回り下り ・ 片足踏み越し下り ・ 横とび越し下り ・ 転向前下り ・ 両膝掛け倒立下り ・ 両膝掛け振動下り	1. 準備運動（加茂小体操） 2. 自分で上り技を選び、できる技を簡単な技から行う。（組み合わせ技の例） ① 跳び上がり➡後方支持回転➡前回り下り ② ひざかけ上り➡後方片膝回転➡前方支持回転➡転向前下り ③ 逆上がり➡後方支持回転➡片足踏み越し下り 5人1組のグループを作り、1人は観察、2人は横から補助をして、回転をサポートさせる。1人はICT機器で動きを記録したり、観察したりする。 ① つばめ姿勢から大きなスイングができていますか ② ひじを曲げてレの字が作れているか ※ 回転できずに落ちた場合 ・ レの字になるまでに鉄棒からお腹が離れていないか ・ レの字から後方に倒れることができていますか ・ レの字から足をもとの頭の位置まで上げているか	1. 準備運動（加茂小体操） 2. 発表方法の確認 3. 発表会 VTR の撮影・技の出来映えについて助言し合う。	
	4. 学習のまとめ 5. 振り返り	4. 学習のまとめ 5. 振り返り	3. 学習のまとめ 4. 振り返り	4. 学習のまとめ 5. 振り返り	4. 学習のまとめ 5. 振り返り	4. 学習のまとめ 3. 学習のまとめ 4. 振り返り	4. 学習のまとめ 5. 振り返り	
指導上の留意点	補助具：チューブ・ゴム等 何度もつばめキックを繰り返して、後方支持回転の回転感覚を掴ませる。 	補助具：チューブ・ゴム等 後ろ振り下り跳び競走をすることで、着地した位置がより後ろにできた児童を見本にしながら、技が上手にできるポイントを考えさせる。	・ 後方支持回転ができた児童に技の発表をさせ、なぜできるようになったかを全体で考えさせる。意見を出し合いながら、コア技術の確認をして、技が上手にできるポイントを共通理解させる。後方支持回転ができた児童をリーダーとし、後方支持回転ができない児童にどのポイントに気を付ければよいかアドバイスをさせる。 ・ 児童同士の学び合いの場を作ることで、かかわりあいながら技能向上させる。 ・ 鉄棒に振れる前に落ちる児童には、肘を突っ張ってお腹が鉄棒に触るまでは下に落ちないように指導する。 ・ 頭が後方に落とし込めない児童には、補助で後ろ方向への回転感覚をつかませる。 ・ つまづきが見られる児童は、回転感覚を掴ませるため、何度かつばめキックや逆上がりをしてから、後方支持回転に取り組ませる。 ・ 後方支持回転ができた児童には、二回連続の後方支持回転や伸膝後方支持回転にチャレンジさせる。			上り技や支持技が一人ではできない児童には、補助具を使って技を行ったり、かかわりあいの中で、安定した補助逆上がりや補助後方支持回転、補助前方支持回転をしたりすることも認める。 		
知				① 観察	② 観察・ICT		③ 観察	② 観察・ICT
思					① 観察		② 観察	
態	④ 観察	③ 観察	① 観察・カード	② 観察・カード		② 観察 ⑤ 観察		

単元の評価規準

【後方支持回転，連続技（鉄棒運動）】

（１）知識・技能	（２）思考・判断・表現	（３）主体的に学習に取り組む態度
① 鉄棒運動の行い方について，言ったり書いたりしている。（知識） ② 支持の姿勢から腰と膝を曲げたまま体を後方に勢いよく倒し，腹を鉄棒に掛けたまま回転し，手首を返して支持の姿勢に戻ることができる。（技能） ③ 選んだ技を組み合わせ組み合わせ，連続技に取り組んでいる。（知識・技能）	① 上手くできたところやできなかったところを，ＩＣＴ機器を活用して，動きのポイントと自己や仲間の動きに照らし合わせ，自己の能力やグループの能力に適した課題を見付けている。（思考・判断） ② 仲間のよい動きを見付けたり，自分で考えたりしたことを学習カードに書いたり，ＩＣＴ機器を活用して，仲間やグループに伝えたりしている。（表現）	① 鉄棒運動の基本的な技である後方支持回転，発展技の膝を伸ばした後方伸膝支持回転に進んで取り組もうとしている。（愛好的態度） ② 互いの役割を決めて観察し合うなど，学習の仕方や約束を守り，仲間と助け合おうとしている。（公正・協力） ③ 場の準備や片付けなど，分担された役割を果たそうとしている。（責任・参画） ④ 仲間の考えや取り組みを認めようとしている。（共生） ⑤ 場の安全や，試技前後の安全に気を付けている。（健康・安全）

【単元の評価規準を基にした「十分満足できる姿」】

（１）知識・技能

単元の評価規準	「十分満足できる姿」
① 後方支持回転の行い方について，言ったり実際に動いたりしている。	・ 後方支持回転の留意点を友達や教師に詳しく伝えたり，カードに書いたりすることができる。
② 支持の姿勢から腰と膝を曲げたまま体を後方に勢いよく倒し，腹を鉄棒に掛けたまま回転し，手首を返して支持の姿勢に戻ることができる。	・ 滑らかな後方支持回転を連続して行うことができる。（何度も繰り返しできる）
③ 選んだ技を組み合わせ組み合わせ，連続技に取り組んでいる。	・ 前方支持回転または，後方支持回転を含んだ組み合わせ技が滑らかにできる。

（２）思考・判断・表現

単元の評価規準	「十分満足できる姿」
① 上手くできたところやできなかったところを，ＩＣＴ機器を活用して，動きのポイントと自己や仲間の動きに照らし合わせ，自己の能力やグループの能力に適した課題を見付けている。	・ 上手くできたところやできなかったところを，ＩＣＴ機器を活用して，動きのポイントと自己や仲間の動きに照らし合わせ，自己の能力やグループの能力に適した課題と解決方法を見付けている。
② 仲間のよい動きを見付けたり，自分で考えたりしたことを学習カードに書いたり，ＩＣＴ機器を活用して，仲間やグループに伝えたりしている。	・ 仲間のよい動きを見付けたり，自分で考えたりしたことを学習カードに書いたり，ＩＣＴ機器を活用して，文字や図，映像を活用して分かりやすく，仲間やグループに伝えたりしている。

（３）主体的に学習に取り組む態度

単元の評価規準	「十分満足できる姿」
① 鉄棒運動の基本的な技である後方支持回転や連続技に進んで取り組もうとしている。	・ 後方支持回転から連続後方支持回転，前方伸膝支持回転，連続技の行い方を試している。
② 互いの役割を決めて観察し合うなど，学習の仕方や約束を守り，仲間と助け合おうとしている。	・ 自分が楽しむだけでなく，グループの仲間を励まし，観察したり，応援したりしている。
③ 場の準備や片付けなど，分担された役割を果たそうとしている。	・ 場の準備や片付けなど，分担された役割を率先して果たそうとしている。
④ 仲間の考えや取り組みを認めようとしている。	・ 自分と友だちの違いを認め，自分事として引き取ろうとしている。
⑤ 場の安全や，試技前後の安全に気を付けている。	・ 自分のことだけでなく，周囲の安全や友だちの試技の前後にも気を配っている。